



R元年12月24日
ひよこ組
No.6

ひよこぐみだより

今年も残すところわずかとなりました。冬至も過ぎ、これから寒さが増してきます。例年なら寒さも一段と厳しいところですが、今年は12月だろうかと思うくらい日中は暖かい日もありました。気温差があると鼻水や咳、発熱など心配です。ひよこ組の子どもたちにも熱が出たり、咳・鼻水が出ている子もいます。体調の変化には十分気をつけたいと思いますので、何かいつもと違うなということがありましたら、連絡帳や朝の受け入れの時お知らせください。

昨日から「インフルエンザ」がひよこ組に3名出ました。園でもこまめな手洗いをし（大人の手洗いが最も重要ですが）、感染予防に努めていたのですが、これ以上広がらないように気をつけましょう。

全国的にも流行傾向であると新聞やテレビでも報道されています。急に熱が出たりと症状が見られたら、早めに病院を受診し、医師の指示を受けてください。

年末、年始は、大人が忙しくなって生活リズムを崩すせいか、赤ちゃんたちの体調も崩しやすくなります。子どもたちのペースを大事に時間に余裕をもってお過ごしください。

今年も大変お世話になり、ありがとうございました。新年もどうぞよろしくお願いいたします。

今、ひよこ組は・・・

ひよこ組も月齢の幅も広がり、ねんね、寝返り、這い這い、つかまり立ち、一人で立ち、一人歩きと動きもそれぞれ活発になりました。

「おはよう！今日も元気かな？」と声をかけると笑顔で返事をしてくれたり、「・・・よう」と頭をちょこんと下げてあいさつしてくれる子どもたちの笑顔やしぐさを見るとうれしくなります。そして、「今日もいっぱい遊ぼうね」と私たちも元気をもらっています。どの子も自分のしたい遊びをたくさんできるように部屋を仕切り、一人遊びができる空間を用意したり、起きている時には、ベランダや庭に出たり、ホールに出かけて広いところで、体を動かしています。

月齢の小さい子は離乳食を食べたり、午前寝をしたりと一人ひとりの生活リズムを大事にお世話しています。少人数で遊ぶことで、一人ひとりの遊びが広がっています。

体を動かすと・・・「脳を育てる」ことになる

12/11・12に小関先生が来園され、運動プログラムをひよこ組もうさぎ組と一緒にして頂きました。はしごやすべり台、巧技台を組み合わせて下肢を使う運動をたっぷり1時間しました。歩き始めのひよこ組の子どもたちにとっては足のあげ伸ばしの運動は、一段と脳を刺激し活性化させます。

赤ちゃんたちでも、次はどこに足を出すのかモデルの先生を見て、自分で考えて足を出しています。それだけ考え、頭を使っている証拠です。下肢がしっかりしてくると上肢の動きもできるようになっていくそうです。だから、まずは下肢を使った運動が大事なんだと思いました。

ひよこ組の部屋でも朝の時間に、運動をしています。巧技台（50cm位）によじ登ったり、滑り台を下から登ったり、一緒にジャンプしたり、全身を使った運動を喜んでいきます。短い時間ですが、毎日というのがいいのです。昨日より今日、今日より明日と子どもたちの動きは、日々発達しています。私たちも一人ひとりに合わせた介助ができるように子どもたちの手を取り、誉めながら「体を動かすことは楽しい」と思ってもらえるようにしていきたいと思っています。

赤ちゃんたちも元気です。

ご紹介が大変遅くなってしまいましたが、ひよこ組の小さいお友達を紹介します。

☆川口勝太郎くん（かわぐちしょうたろうくん）令和元年7月8日生まれ・9月入園

☆田口眺也くん（たぐちひかりやくん）令和元年7月25日生まれ・10月入園

☆田邊旺希くん（たなべおうきくん）平成31年4月10日生まれ・11月入園



この頃は、3人一緒にマットの上で、腹這いになり、お互いにお友達の存在を感じながら、顔を見合わせて笑いあっています。前に進めるようになった旺希くんは、勝太郎くんや眺也くんのそばに行って顔やおでこをくっつけてみたり、勝太郎くんは、観察しているかのようにお友達の顔をよく見てにこにこしたり、眺也くんは、お友達の動きに声を出してニコニコと笑っていたり、心が温まるようなふれあいが繰り返されている今日この頃です。小さい体で、いろいろなことを感じているんだと子どもたちの心の成長にも驚かされる日々です。毎日、子どもたちが保育園でも安心して楽しく過ごせるようにしていきたいと思っています。



テレビを消して親子でおしゃべりを！

「テレビを見ながら、メールをしながら・・・」

赤ちゃんに授乳する時、テレビを見ながら、メールをしながらというお母さんがなんと8割もいることが明らかになりました（NPO こどもとメディア調査2010）。親子の愛着形成の大切な第一段階で、日本のお母さんの80%が赤ちゃんからのアイコンタクトを拒絶し、電子画面を見つめているのです。そして、そうした親たちは、発達途上のわが子の脳に、電子画面からの強烈な光の刺激、機械音の刺激、電磁波などを浴びせかけることに何の疑問も抱いていません。

こうした「メディア漬け」の子育ては、幼児期、学童期と続きます。2歳までの子どもは自分からテレビ・ビデオを見たいとは言いませんが、テレビやDVDをベビーシッター代わりにしていると「メディア漬け」のきっかけを作ることになります。「言葉の力」を身につける機会の家族団らんの食事の時間は、テレビを消して会話を楽しみましょう。

「うちの子は、まだテレビを見ないから。」とテレビがついているところで、遊んだり、ミルクをのんだり、食事をしていることはありませんか？テレビを見る、見ないは、全く関係なく、テレビがついているだけで子どもの脳に光刺激が入ってしまうのです。特に赤ちゃんたちの柔らかい脳に光刺激を入れないようにしましょう。子どもが眠る時は、親もちょっとテレビを我慢して、一緒にお布団へ。絵本を読んだり、ゆったりごろごろしたりしていると、気持ちよく夢の中へ入れますよ。

家庭でできる【ノーテレビ】への一歩

- ① テレビ画面に布カバーをかけましょう。
- ② ビデオソフトは見えないところにしまいましょう。
- ③ リモコンではなく元コンセントで切るようにしましょう。
- ④ 見る時はタイムスイッチを利用し、見たい番組が終わったら切れるようにセットしておきましょう。
- ⑤ 食事中や見ていない時は切る習慣を言葉に出して言いましょう。
- ⑥ 寝る1時間前には切って、布団の上でじゃれつき遊びを。

NPO法人 一子どもとメディアよりー